

## 「 島前で学んだこと 」

私が、島前合宿に行くことを決めた理由は、学生は自分の中で一番何事も気にしすぎることなく自由にしたいことが出来る最後の時期だと思っています。なので、この4年間自分が興味を少しでももったものは何でも飛び込んでみようという気持ちから島前合宿を知った瞬間、自分の知らない世界を少しでも知ることが出来るのではないかという単純な理由ですが、何があっても絶対に参加しようという強い決意のもと今回参加しました。島前合宿では主に大きな3つの企画がありました。そのことについての内容と感想、反省などをまず書いていこうと思います。

1つ目は、西ノ島にある中学校との交流です。まず島前というところは西ノ島・海士町・知夫の3つの島からなっています。その島に1つずつ小学校と中学校があり、高校は3つの中で海士町に1つだけです。そのような環境の中にいる西ノ島の生徒たちにあまりなじみのない大学とは・大学生とはというものを自分の価値観・人生観を交え伝えながら、中学生たちが描いている自分の将来像をより少しずつ明確にしていくための手助けを交流しながらしてきました。私は、人生はただ楽しいということももちろん大切だと思うのですが、それよりも自分が今までしてきたことを振り返ってきたときに人に語り尽くせないようなたくさんの経験をするのが一番であると考えています。その経験がつかなくてもいいことだったとしても時間が経って振り返ればどれも素晴らしい経験に変わっていると思うということを中学生にとっても伝えたいと事前準備の段階から考えていていました。実際中学生の男の子とペアになり、たくさんお話しをしたのですが自分が思っているよりもやはり伝えても理解をしてもらおうということはとても難しく、もっとわかりやすく簡単にまとめられていたらまた違ったのかなと反省しました。また、私が中学生から学んだことはたくさんありました。私とペアだった男の子は、もう将来大学へ進学せず親の後をついで専門の高校を卒業したあとは漁師になると決めていました。そのことをずっと前から考えていて私よりずっと将来のことについて考え先を見ていることに驚きましたし、本土への憧れもあり本土へきて学びたいこともしっかりと考えていて、自分は何気なく過ごしてしまっている時期もあることがすごくもったいないことなのだなと感じました。

2つ目は、道前さん家への訪問です。道前さんは、西ノ島で畜産業をしていたりレンタカーを貸し出していたり様々な経営をしている方です。そして、道前さんの所有する牛舎を見学させていただいたり、車に乗せていただいて西ノ島のいろんな観光地へ連れて行っていただきました。牛舎見学の際は、西ノ島は主に畜産が盛んで神戸牛のほとんどは隠岐牛であること、少子高齢化で後継ぎが大変なこと、隠岐牛は小さいころからずっと放牧しているので気性が荒いということなどたくさんのお話を教えていただきました。分かりやすい資料も用意してくださりととても親切な方でした。しかし、質問のときや車でお話しし

てくださっているときなど、私の事前の調べが浅く知識も全然なかったので道前さんからその場でしか聞けないようなことが聞けず、またこういうことは相手の方にもとても失礼なことなのだとそのとき気づき深く反省しました。ここでの反省をふまえ3つ目の役場への訪問では、自分が知りたかったことをきちんと聞くことが出来てとても良かったです。漁業、観光、島の高齢化、空き家バンク、ふるさと納税、Iターン・Uターンのことなど幅広いお話をたくさんお聞きすることができました。これらのことを聞いて私が特に興味を持ったものはIターン・Uターンのお話でした。島ということもあってやはり20代前後で島を離れてしまう人が多く中々帰ってこないで、その年代の人たちを無理に引き返そうとはせず40代くらいになった時ふと西ノ島に帰りたくなるような取り組み、例えば働く場所を用意しておいたり、子育て支援を充実させたりと新しい観点から島の人口減少対策をしてすごいなと思いました。しかしまた、とにかく人を集めるというわけではなく住む場所に限りがあったりするので西ノ島は3000人を維持するというのを頑張っていると聞き、ただ増やすということよりも維持することのほうが大変なのかなと思いました。

これらの主に3つの企画の他にも西ノ島に6泊7日滞在して本当にたくさんを経験しました。海士町で行われたキンニャモニャ祭りでは、踊りに飛び入り参加し島の方たちと一体になり島にさらになじむことが出来た気がしてとても楽しかったです。老若男女問わずみんなで踊っていて、島の高校生たちはとても恥ずかしそうにしていながらみんなちゃんと踊っていて島の温かさをお祭りで感じる事が出来ました。

別の日に島探検で友達と2人で海士町に行き観光をしようとしていたのですが大雨で交通手段もなく困っていたときに偶然海士町出身で現在法政大学現代福祉学部の1年生とその友達に会い面識はなかったのですが、せっかくだからと車で海士町を案内してくれました。その時島留学などで中学の頃から1人暮らしをしていた友達の話を聞いたり、高校まで海士町で暮らしていた彼の島ならではの話などたくさん聞くことができとてもためになりました。

台風の影響で延泊をした日には、夜ご飯をみんなでまた作るのは大変だからと西ノ島の方がご馳走してくださりました。その時にも島ならではの話をたくさんしてくださり、その中で私が一番心に残っているお話が、その家の娘さんは隠岐に唯一ある高校では自分のしてみたいことが学べないからと中学を卒業してから1人暮らしをされたのですがやはりまだ一番家族と過ごさなくてはならないときに1人にさせてしまい、娘が大人になった今家に戻り家族と暮らし失っていた時間を取り戻して早く1人にさせてしまったことを後悔しているので何事も焦り過ぎなくてもきちんとタイミングがあると話しされていて、1人暮らしがこんなに身近にあるというのは今も実家で暮らしている私からするととても別世界のようなことだったので現実的なお話を聞いてとても考えさせられました。そのご家族は、ご馳走してくださった上に1台の車で往復するのは大変だからと2台車を貸してくださいました。

これらのことも含め西ノ島で1週間ほど滞在していて強く思ったことは島の方たちが全員すごく親切だということです。

中学校の校長先生もほかの先生方も私たちのことを温かく迎えてくださりましたし、生徒たちも接していてすごく純粋で明るくて優しいのが伝わってきました。道前さんも見学だけのつもりが色々みせてあげると急遽島の案内をしてくださったり、役場の方もすべての質問に丁寧に答えてくださったり、海士町で出会った友達も雨のなか最後まで案内してくださったり本当に西ノ島・海士町と島全体が温かかったです。

それは、きっと島中の大人の方たちが子供たちを常に温かく優しく見守っていることにあるのではないのかなと思いました。そしてその子供たちがまたその子供たちへと優しさを受け継いでいっているのだと思います。

島前合宿へ行ってたくさん経験ができ、たくさんのお話を聞いて新しい観点で物事を見ることができ、またボランティアをすることの大切さも実際に感じることで本当に良かったです。